

New Music in U.S.

アメリカ特派員

Peter Smagorinsky

明治大学教授

堀内 克明

In America, music plays an important cultural role, not merely for the appreciating audience, but for the voice of expression it allows the artist. Since the United States has always been a melting pot¹ of other peoples, the influences which have shaped our music are many and varied, and we have always been quick to absorb anything new which comes along, regardless of how lasting the effects might be. Early compositions, of course, reflected a European influence. The white society, however, greatly in the majority, became complacent in its appreciation of music, and became an audience, rather than an innovative force in creating a new musical culture. As a result, the music known as American music was that created by its poor black citizens, those who had no access to symphonies or other accepted means of musical communication. They were forced to come up with something new — relatively simple, based on rhythm, and a way to express themselves in a meaningful way, which would include their African roots as well as their present social condition in America. This music became known as the blues, and its descendent, jazz.

American music is still absorbing new influences all the time. The new music generally comes from an oppressed people, as were the blacks, who are seeking both a musical and political outlet for their pent-up emotions.² The primary feature of the music is a unique rhythm, as the dance is an important physical outlet and means of expression. For this report, I have assembled information on three new musical influences which have recently become popular in the U.S.: salsa, from Latin America; Afro-beat, from Africa; and reggae, from Jamaica.

アメリカでは、音楽は重要な文化的役割を果たしている。それは音楽を鑑賞する人たちにとってあてはまるだけでなく、音楽が芸術家に表現の機会を与えているという意味においてもいえることである。アメリカ合衆国は、よそからきたいろいろな人種のつぼであったので、その音楽を形成するにいたった影響力にはさまざまなものがある。そしてアメリカ人は、新しく生まれてくるものは、なんでもすぐに吸収してきたのである。それが及ぼす影響が永続的であるとは限らないが、そんなことは気にしていない。もちろん、初期の作品はヨーロッパの影響を反映していた。しかしながら、大多数を占める白人層は、音楽を鑑賞することに満足し、新しい音楽文化を形成する原動力となるよりも、聴衆となったのである。その結果として、アメリカ音楽というものは、交響楽やその他の認められた音楽伝達の手段からしめ出された貧しい黒人層がつくり出したものである。黒人たちは、何か新しいものを考え出さないわけにはいかなかった。それは比較的簡単で、リズムに基礎を置き、意味のある仕方自分たちの気持ちを表現する方法であったが、アメリカでの彼らが置かれた社会的な状況のみならず、彼らもつアフリカの根源をも含むものであった。この音楽はブルースやその後を継ぐジャズとして知られるようになった。

アメリカ音楽は、依然として常に新しい影響を吸収し続けている。その新しい音楽は、たいてい黒人のような抑圧された人種から生まれてくるが、彼らはそのうっ積した感情に対する音楽上のはけ口と政治上のはけ口を求めているのである。その音楽のおもな特色は、独特のリズムであるが、それはその踊りが重要な肉体的はけ口と表現の手段となっているからである。この報告のために、私は最近アメリカ

Salsa — means, literally in Spanish, a sauce, flavor, or gravy used in Latin cooking. Used lyrically as an exclamation, “Sal-sa!” means swingin’³!* Figuratively, it’s a cookin’⁴* Latin music liberally seasoned with hot sauce. Rhythmically, salsa is a basic clavé⁵ two-bar phrase that can and does change with the tune. Harmonically, it’s related to jazz. Genetically, its roots are in west black Africa. Geographically, salsa lies on a line drawn between Havana and New York. (Quoted from Charles Suber, “The First Chorus,” *Downbeat*, Apr. 22, 1976)

Afro-beat — a music which originated in Africa, a synthesis of African, semi-calypso⁶ rhythms and American jazz (specifically Miles Davis, Charley Parker and John Coltrane.) It is used as a means of raising blacks from a “colonial mentality” of submissiveness, to a feeling of black pride and awareness. The instrumentation is primarily percussion, brass and

で人気が出てきた三つの新しい音楽上の影響についての情報を集めてみた。それは、ラテンアメリカからきたサルサ、アフリカからきたアフロ・ビート、ジャマイカからきたレゲイである。

サルサはスペイン語で、文字どおりの意味は、ラテン系の料理に使われるソース、調味料、肉汁である。間投詞として感情を込めて使うと、「サルサ！」はスインギング*の意味になる。比喩的には、サルサはホットソース（チリ入りトマトソース）でふんだんに味つけされたクッキング*なラテン音楽である。リズムからいうと、サルサは曲とともに変化できるし、実際に変化するクラベの2小節の楽句（一区切り）を基本にしている。ハーモニーの点では、サルサはジャズに関連がある。発生的には、その根源は西アフリカにある。地理的には、サルサはハバナとニューヨークを結ぶ線上にある（チャールズ・シューバー、「ファースト・コーラス」、『ダウンビート』誌1976年4月22日号より引用）。

新語解説

salsa [sælsə, sa:lsə:] 「サルサ」。スペイン語でソースの意味だが、新しい音楽の名称となった。スペイン語では、salsa francesa（フレンチ・ドレッシング）、salsa de tomate（トマト・ソース、ケチャップ）、salsa inglesa（日本でいうソースつまりウスターソース）などと盛んに用いている日常語であるが、これが音楽の名前となったのは、「わさび」とか「味」とかいった感じからきているのだろう。もっとも、スペイン語には *estar en su salsa*（本領である、得意の境地にいる、気楽である）というイディオムがあるので、その意味が加味されているとも考えられる。

語源的には、英語の *sauce* と同じで、ラテン語の *salsa* (=salted) にさかのぼり、*salt* (塩) と同じ語源である。

Afro-beat [æfrubi:t] 「アフロビート」。文字どおりにはアフリカ流のビート（拍子）である。アフリカの原始林にこだまするドラムのビ

ートを連想してつけられた名である。ロックの別名を *big beat* というように、*beat* は音楽の名称として利用される。

reggae [réigèi] 「レゲイ」。日本では「レゲエ」とか「レガエ」とも呼ばれている。これは1969年に西インド諸島からの移民がイギリスに持ち込んだのが最初である。

そこで Elizabethan Reggae などというのが出されて、British reggae が定着し、一方では、アメリカへも reggae が進出していった。

laid back (俗) 「レイドバックした、レイドバックな」。日本語でもそのまま借用しているが、「リラックスした、ゆったりした、のんびりした」などの意味である。本来は、「うしろの方へ置かれた、1歩さがって離れた」ということで、対象と距離をおいて、対象に打ち込んだり、のめり込んだりしないことをさしていた。そのため、はじめは、Eugene Landy, *The Underground Dictionary* にあるように、「さめた、むきにならない、おさえた、ひっこんだ、つき放した、気にかけない、のまれない」というような無関心、無感動を意味したが、しだいに、ゆったりと落ち着いたという肯定的な意味が中心になってきたものである。要するに *cool* とか *calm* というのに近い。

vocals. T
striving for
similar stru
imploration
the social
white major

Reggae — T
teresting an
has been reg
tious rhyth
but because
counter-cult
Americans l
and therefore
circles beginn
good) which
music. The m
Trench Town,
adopted the R

(例) I prefer
た音楽が好き)
formance. (彼ら
She is a laid-
ならない)

bad [bæ:d] 「い
本来の意味とまっ
なくない。heavy
なることがある。
「めす犬のような
換して「すてきな
bitchin’!」と
ばらしい」の意味
日本でも3年ほ
で「あくどい」や
くいかした」の意
のよい服装をしたか
くどい!」とか
り、「あの子、あくど
い子、お前のオナベ
する。これは、アメ
と同じ気持だが、ひ
日本語に移しかえた

vocals. The message is not a racist⁷ one; the striving for black power, influenced heavily by a similar struggle by blacks in America, is rather an imploration for blacks to pull themselves up to the social, political, and economic level of the white majority.

Reggae — The music which has had the most interesting and far-reaching influence on America has been reggae, not merely because of the infectious rhythm which has infiltrated many songs, but because of the new words of the Jamaican counter-culture⁸ (which, of course, appeals to Americans because it is outcast, rebellious, and therefore “bad”,⁹ which, in the vogue outlaw circles beginning in the black community, means good) which have spread north along with the music. The music springs from the inhabitants of Trench Town, Jamaica, a dismal slum, who have adopted the Rastafarian (Rasta)¹⁰ religion. The

(例) I prefer *laid-back* music. (ゆったりした音楽が好き) I like their *laid-back* performance. (彼らのリラックスした演奏がいい) She is a *laid-back* chick. (あの子はむきにならない)

bad [bæ:d] 「いかす, かつこいい」。俗語では本来の意味とまったく逆の意味になる言葉が少なくない。heavy も「よい, いかす」の意味になることがある。また *bitching* (*bitchin'*) も「めす犬のような, たちの悪い」から 180 度転換して「すてきな, いかした」の意味で, *That's bitchin'!* と言う。wicked (ひどい) にも「すばらしい」の意味が生じている。

日本でも 3 年ほど前から, 進んだ若者の言葉で「あくどい」や「あくどーい」は「すっごーくいかした」の意味である。たとえば, センスのよい服装をしたかわいい女の子をさして, 「あくどーい!」とか「あっくどい!」と感心したり, 「あの子, あくどいなあ」とか「あのあくどい子, お前のオナベツトかよ」などと言ったりする。これは, アメリカ俗語の *bad* (いかす) と同じ気持だが, ひょっとすると, この *bad* を日本語に移しかえたものかもしれない。

アフロビート——アフリカ起源の音楽であり, アフリカの半カリブソ風リズムとアメリカのジャズ (特に, マイルズ・デイビス, チャーリー・パーカー, ジョン・コルトレーン) を総合したものである。アフロビートは, 黒人を服従という「植民地的精神」から黒人の誇りと自覚へと高める手段として使われている。編成は主として打楽器とブラスとボーカルである。歌詞は人種中心の主張をもつものではない。ブラック・パワーを求める努力は, アメリカの黒人による同様な闘争によって大きな影響を受けているが, どちらかという, 多数を占める白人の社会的, 政治的, 経済的水準にまで, 黒人が自分自身を引き上げるようにという懇願なのである。

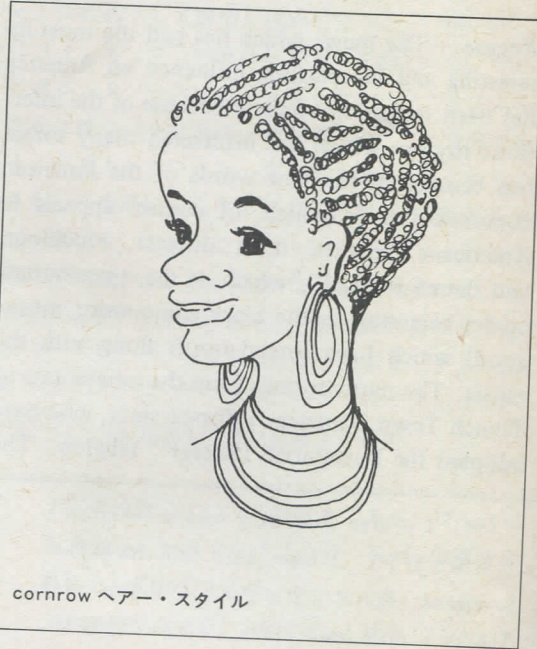
レゲイ——アメリカに対してもっとも興味があると同時に広範囲に及ぶ影響を与えた音楽はレゲイであるが, それは多くの歌に浸透した伝染力の強いリズムのせいばかりではなく, ジャマイカのカウンターカルチャー (それは, もちろん, それがかしめ出され, 反抗的であるために「バーッド」であるからだが, 「バーッド」は黒人社会に始まる流行の無法仲間では「グーッド」を意味する) の新しい言葉のせいである。その言葉はレゲイとともに北へ向かって広まってきている。レゲイはジャマイカの不気味なスラム街で, ラスタファリア (ラスタ) 教を信じるトレンチ・タウンの住民から発生した。この地区の住民は髪の毛を「ドレッドロック」という編み方している (アメリカ合衆国では, もっと短い髪をもった黒人は, コーンロウとして知られる仕方で髪を編んでいるが, これは畑で規則正しく列をなしているトウモロコシのうねに似ているためにそう呼ばれる)。レゲイを生み出した激しく, 憤激した社会的雰囲気と対象的に, そのシンコペーションをもつリズムは, 驚くほど「レイドバックな」 (これは落ち着いて, 抑制されたことを意味するが, ジャマイカ起源ではない) 音楽をつくり出している。これは, ラスタ派の人たちが, 「ガンジャ」とか「ハーブ」として知られるものを取りつかれたように使っているからである。それは, アメリカでは, マリファナ, ポット, ウィード, グラス, フーチほか数々の名で呼んでいるものである。ガンジャは, その地区で栽培される特別な種類のカナビス (大麻) をさす名称であるが, ハーブは, 確かにその草が葉草に似ていることをさしている。しかしながら, もっと重要なのは, 「ハーブ」が目もあてられない貧困と抑圧という絶え間ない圧迫から息抜きを与えてくれるという医療

members of this community wear their hair in "dreadlocks"¹¹, a means of braiding the hair. (In the United States, blacks with shorter hair braid theirs in a manner known as "cornrows"¹², so called because of the resemblance to cultivated corn growing in precise parallel rows in fields.) In contrast to the violent, outraged social atmosphere which spawned the music, the syncopated rhythms of reggae make for¹³ a surprisingly "laid back"¹⁴ (a term meaning calm and controlled, not of Jamaican origin) music. This is because of the Rasta's obsessive use of what is known as "ganga"¹⁵ or "herb"¹⁶, or, as it is called in the U.S., marijuana, pot¹⁷, weed¹⁸, grass,¹⁹ hootch,²⁰ or any one of a number of names. While ganga is a name for the particular cannabis²¹ grown in that area, herb no doubt refers to the weed's resemblance to such plants; more important, however, is the "herb's" medicinal value, of relief from the constant pressures of abject poverty and oppression.

* "Cookin'" (cooking) and "swingin'" (swinging) are old terms which describe music which is "hot" or "boogies" (to boogie): fast tempo, with heavy rhythm, and induces the audience to dance.

的な価値をもっていることである。

* cookin' (cooking) と 'swingin' (swinging) はもともとからある言葉でホットであり、ブーギーする (動詞の boogie) 音楽をさす。つまり、テンポが速く、強いリズムをもち、聞き手に踊る気持を起こさせるものである。



cornrow ヘア・スタイル

本文の注

- 〈注〉 1. melting pot 溶るつぼ。特にアメリカの別称として、諸人種を融合させる土地の意味で用いる。
 2. pent-up emotions 閉じこめられた感情、うっぶん。
 3. swingin' (俗) 進んだ、いかす、こえている。
 4. cookin' 生きのよい、ばつぐんの。ここでは salsa というソースにかけて、cooking (料理する) という縁語として効果的に用いている。
 5. clavé [kla:véi] 1対の小さな円筒形の木の棒で打楽器として、手の中で打ち鳴らされるものをさすが、本来はスペイン語で key (かぎ、基調) の意味。
 6. semi-calypto 半カリブソ風の。カリブソは西インド諸島トリニダッド島の原住民の踊りと歌。
 7. racist 人種差別的、民族主義的。
 8. counter-culture 反文化、対抗文化。既製の体制的文化に対立する文化。
 9. bad (俗) [bæ:d] と発音すると「いかす」とか「かっこいい」の意味になる。
 10. Rastafarian (Rasta) ラスタファリア派とは、西インド諸島でエチオピア皇帝 (Emperor of Ethiopia) を支持して、その統治を受けようとする一派をさす。Ras Tafari

- はエチオピア皇帝 ハイレ・セラシエ (Haile Selassie) の本名である。Rasta は Rastafarian の略称である。
 11. dreadlocks 文字どおりには「恐ろしい髪の毛」の意。
 12. cornrows 文字どおりには、「とうもろこしの列」の意。
 13. make for に向かって、に役立つ。
 14. laid back (俗) のんびりと落ち着いた、ゆったりした。解説を参照。
 15. ganga [gãndʒə] (俗) マリファナ (ハシシ)。ヒンディー語からサンスクリット語にさかのぼる。ganjah, ganji, gunja, gunjah ともいう。本来は、日本でスーパーマリファナ、ブダグラス、ブダスティックなどと呼んでいるインド産のマリファナをさす。
 16. herb [hɜ:rb, ə:rb] (俗) マリファナ。「薬草」が本来の意味。
 17. pot (俗) マリファナ (タバコ) をさすもっとも一般的な言葉。
 18. weed (俗) マリファナ。「雑草」の意。
 19. grass (俗) マリファナ。「草」の意。日本の俗語で「くさ」というのはこの訳からきている。
 20. hootch (俗) マリファナ。hooch ともつづり、本来は「密造酒、密輸入酒」の意。
 21. cannabis 大麻 (hemp)。学名の Cannabis sativa から。マリファナ類の正式名称となっている。

海外

止



PPS 提供

★★

Three men - Tor
 Because the mana
 decide immediatel
 the men a test. He
 white hats and tw
 The men turned th
 hat on each man's
 two men's hats, bu
 could see two white
 put a white hat on
 He told the men tha